

第180号
ほほえみの会
2013.5.12



厚生労働省の「がん対策推進協議会」の委員を委嘱されることになりました。委員会は「がん対策基本法」に沿った計画の推進を図るものです。昨年制定された計画には成人がんに加えて「小児がん対策の充実」が含まれたことから私に声がかかったと思います。分野別目標は「5年以内に小児がん拠点病院を整備し、小児がんの中核的な機関の整備を開始する」というものです。小児がん治療の環境向上について今後、国レベルで議論に参加できますので、ご意見のある方はお寄せ下さい。

<第212回 2/10 ほほえみの会 >
3人が参加しました。

▽ 小学1年女子、急性リンパ性白血病。1月末にイチゴ狩りに行って元気だったが帰った途端に、お尻の付け根の足が痛いと言いだした。熱もあったので掛かり付け医へ行き、その後総合病院を経てこども病院へ。7月に3人目が生まれる予定。化学療法を始めた。父親は楽観的だが、母親とすると今後病気にどんなリスクがあるのか不安。

<第213回 3/10 ほほえみの会 >
10人が参加しました。堀越先生、鈴木先生も顔を出してくれました。

▽ 7歳女子、抗がん剤治療で寛解を迎えたが今後、骨髄移植を検討する。今のところ娘は元気で、本当に骨髄移植が必要なのか悩む。

▽ 中学2年男子、急性リンパ性白血病。熱が下がらなく腫れもあったので総合病院へ。検査入院の後こども病院へ。本人にも告知をした。なぜ病気になったのか、感染も気にしていた様子だが、理由は分からないし感染もないことを伝えると本人も納得した様子。5月の修学旅行がいけないのがショックの様子。今後学校との関わりをどうしたらいいのか、高校受験が出来るのか心配。母親は、これまで仕事で忙しかったが、子どもが病気になったことで親子の時間が過ごせると、前向きに考えている。

母親の姉がナースで「可哀想と思うと泣いてしまうが、泣いても病気は治らない。涙は良い結果が出たときに流しなさい。日々、良い所をみていきなさい。」と言われた。息子も薬で髪の毛が抜けるという「やったースキンヘッドだ」と言う。親子で前向きにいきたい。

▽ 県立総合病院で治療を受けているが、医師が娘にいきなり病名告知をしたり、説明がないままにいきなり治療に入ろうとするなど不満が溜まる。娘は元気だが親のほうにストレス。病院を変えたいが、県内で一番の医師といわれるとそれも出来ない。

<第214回 4/14 ほほえみの会 >
5人が参加しました。

▽ 小学4年男の子。脳腫瘍。去年の夏からおしっこが出すぎるホルモン異常があった。身長伸びも止まったことからMRIを撮ったところ腫瘍が見つかる。頭の中の生検で心配をしたが、原因が分かってよかった。厚生労働省が定める治療方針があり治る病気と聞いたので安心している。今後、普通に生活が出来るのか心配。

<第215回 5/12 ほほえみの会 >
堀越医師、松岡医師含め8人が参加しました。

▽ 2歳8ヵ月女の子。肝芽腫。未熟児で心臓に疾患を持って産まれたので、毎月血液検査もして病気が見つかる。抗がん剤の後、手術をして、その後も抗がん剤治療をしてきた。最近ようやく免疫力も上がり、家の外に出て遊べるようになった。手術では肝臓の半分をとったが、再発が心配。また、お腹に手術の跡が大きく残ったが、傷跡や病気について今後どう理解していくのか心配。

▽ 今年の総会は7月21日(日)に開催することになりました。「患児兄弟のケア」について講演をしていただく予定です。詳細が決まり次第、改めてご案内をしますのご出席ください。

次回 は6月9日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>